

同じ題の拙文をこの欄に載せていただいてから1年が経過しました。「趣味は囲碁です」と堂々と言うためにはもう少し強くなるしかない、というのが結論でしたが、努力不足もあり、そう簡単に「強くなりました。」と報告できる状況に到達するはずありません。にもかかわらず、再度「趣味の話しを書け」と編集長からの一言……。考えた挙句『実力の話し』ではなく『囲碁の周辺の話』にすり替えることにしました。

予期せぬプレゼント

最近のことですが、昔のお客様から碁盤を頂くことになりました。ご主人はもう10数年前に亡くなれましたが、奥様は、ご主人が健在であった頃とまったく同じしつらえで暮らしておられました。しかし、ここにきて奥様自身が高齢化のためいろいろなケアの整った施設に移られることになりました。当然ながら家の中を整理せざるを得なくなり「何か記念に主人のものを差し上げたい。」ということで碁盤を頂く約束をしました。私も碁歴は長くなりましたが、実は道具には全く無頓着で、つい最近まで自宅にあったのは実家から持ってきた碁石はいいとしても盤のほうは折りたたみの安物でした。退職するとき「何か記念品を決めてください。」と人事から言われ、それではと意気込んだものの、法外なおネダリもできず、桂の2寸盤というのをいただき若干サマになりました。件でご主人は、碁とゴルフとゴンちゃん(愛犬)の3つの<GO>が大好きな優しい方だったことが思い出されます。初めてお会いした頃から、「私も囲碁が趣味です。」と吹いてしまっていたので、「それでは一度、対局しよう」とおっしゃっていたのですが、残念ながらそのチャンスは巡ってきませんでした。ご主人は紛れもない高段者でしたので、悔やまれると同時に、今回の話には「もしも、高級な本榧の盤だったらどうしよう」などと不埒なことが頭をよぎる図々しさでした。

本榧の碁盤

碁盤にはいろいろな種類の木材が用いられています。桂・台榧・スプルー・アガチスなど、高価なものには紫檀や黒檀もありますが、なんといっても最高級品は本榧の碁盤です。石を打ったときの音と弾力性、見た目にも美しい色艶、芳しい香り、どれをとっても他の樹種で敵うものはないといわれています。原木は、今では宮崎県、九州山脈東南部にしか生息していないといわれる樹齢数100年(古いものは800年くらいといわれる)の巨木を伐採後、5~8年くらい自然乾燥させたものが使われているそうです。この地は降雨量が多く、山中では比較的寒暖の差が激しい。直射日

光も強く、更には岩場に生息しているらしく、このような厳しい条件の中で生き抜いてきた故の強さがあるようです。これは、退職記念の碁盤を見に行ったとき、碁盤店の主人が教えてくれた話なのですが、聞くだけでも年季の入った木材だなーという感じがしました。値段も高額で、下は数10万円から、キメ細かい柃目の美しいものでは、1000万円以上するものも珍しくはないという。

そろそろ、いただきにあがる日を決めなくてはと思っているのですが、急に不安が頭をよぎり始めました。それは、碁盤に直面したとき、もしも本榧であれば「これはすごい」とか言うのが礼儀であろうし、本榧でなくても「この材料は〇〇ですね。」といえればいいのですが、私には素材を見極める眼力が極めて乏しいことに今更ながら気がついたからです。

多分、奥様もその碁盤がどんなものかはご存じない様子なので、あちらから解説していただけることはありません。「これはどの程度のものでしょうか?」などと、あちらから訊ねられたらどうする……。どうしようもありません……。

道具を識るのも趣味のうち

で、決めたことがあります。いかにも高価そうだったら、まさか<なんとか鑑定団>に出すわけにもいきませんし、碁盤店に持ち込んで聞くのもご主人に失礼です。そのときは、改めて碁盤について目利きとなるよう勉強し自分で判断できるまで続けることにしました。そうになったら、とりあえず宮崎に行ってみようと思っています。樹齢数100年の榧の立木を観たり、碁盤作りや<太刀盛り>(太刀目盛りとも言うが碁盤の縦横19本の線を日本刀の刃を落としたものに漆を乗せて引く技術)をじっくり見聞できれば、目利きへの第1歩かなと安易に考え始めています。実は、宮崎にはもう一つ行きたい場所があります。日向のお倉が浜という海が、囲碁のもう一つの道具、白石の産地なのです。ここで獲れる<日向蛤>というのが白石の最高級品の材料なのですが、今やこの浜はむしろサーフィンのメッカとして有名で、蛤の収穫は減少の一途、希少価値で、一度はこの浜に立ってみたいというのが理由です。



太刀盛り



お倉が浜